

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　青山　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施しました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的
- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容
- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査
- | |
|--------------------------------|
| 児童質問紙調査 |
| ○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

3. 教科に関する調査結果の概要
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析
- | | | | |
|----|-------------|---|-------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ○「知識・技能」「書くこと」「読むこと」の正答率が全国比と同等であった。
○問題形式「短答式」「記述式」において全国平均を上回っていた。
○すべての問題において「無回答率」が全国平均より低く、最後まで粘り強く取り組み続けていることが分かる。
●「思考・判断・表現」の「話すこと・聞くこと」の正答率が全国より下回っている。 | 全国平均正答率との比較 |
| | よくできた問題 | 学年別漢字配当表に示された感じを文の中で正しく使う問題
文章から人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすることができる問題 | 下回っている |
| | 努力が必要な問題 | 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかの問題 | |

算数	全体的な傾向や特徴など	○「データの活用」領域の正答率が全国比より上回っていた。 ●「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率が全国比より下回っている。特に図形領域における正答率が全国比より下回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	円グラフから割合を読み取って書く問題・データから関係性を読み取る問題	下回っている
	努力が必要な問題	速さや体積に関する問題・数学的思考力を必要とする問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要
- | |
|---|
| 「学校での学習」及び「家庭等での学習」についての全ての項目において、肯定的な回答をした児童の割合が、全国の結果を上回っていた。特に「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」では、全国平均を大きく上回っていた。 |
| 「授業でPC・タブレットなどのICT機器を活用しているか」との問いに対して、約98%の児童が肯定的に回答している。「ICT機器を活用することで友達と協力して学習を進める」「分からないことがあったときにICT機器を活用して調べる」に対し約9割の児童が肯定的な回答を行っている。 |
| 「学校の楽しさ」を、さらに高めていくため、児童の心に寄り添いながら、学校生活の充実に向けて行く必要がある。毎月の「こころのアンケート」や、相談面談週間に加え、児童が毎朝入力している「心の健康観察」の内容等を担任及び職員で見守りながら、児童の心に寄り添い、児童が安心感をもって登校することができるようにしていく。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組
- ① 教科に関する取組

①【青山田くんタイム】全校一斉に学力向上を目的に、毎日10分間GIGA端末での教科の復習、タイピング練習、ドリルやプリント学習による基礎学力向上等の時間を設定し、集中する取組を実施している。

②【特別活動と教科の連動】学級会活動を全校で研究しながら、各教科でも子ども同士の学び合いにつなげている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

①学年に応じ、家庭学習への取組の様子を把握し、学級内に掲示し、取組の評価を行う。

②携帯やスマホの使い方やネットトラブル防止については、啓発資料を定期的に配信、配布したり、GIGA端末で家族で情報セキュリティ教材を活用したりするよう案内を継続している。

③ホームページ、学校だより等で学校での様子を家庭に発信する。